

2007年度 インターネット基盤整備基金資産の運用計画(案)

標記の件、資産運用規程に基づき、運用資産(運用期間1年以上)である、インターネット基盤整備基金資産の運用について、下記の通り進めたく。

記

1. 2007年3月31日時点での基金資産の状況

基金資産総額	1,085,280,970円	*2006年度決算値(時価評価)
・2006年度運用収入	38,075,111円	(利回り実績 3.50%)
・2005年度運用収入	28,026,913円	(利回り実績 2.85%)
・2004年度運用収入	9,090,343円	(利回り実績 0.95% 2004年下期運用開始)

2. 運用計画策定の考え方

(1) 基本方針

- 今後新たにインターネット基盤整備基金資産に繰入れられる資金、及び、既に償還を迎えた、また今後償還を迎えるインターネット基盤整備基金資産につき、債券での運用を行い 安定的な財政基盤の一助とすると共に効率的な資産管理を行う
- 社団法人の資産運用であることから、基本的にリスクを抑えた手堅い運用を志向する。
- その上で、資産運用規程の範囲内で、ある程度の運用収益を確保できるよう、柔軟かつ積極的な運用をバランスよく行う
- 仕組債のコール時の対応
仕組債がコールされた場合は、資産運用委員会にて、速やかに再投資の検討を行う
- 益出し後の資産は、当面銀行預金等の安全かつ流動的な方法で運用しつつ、資産運用委員会にて適切な投資の機会をうかがう
適切な再投資の機会がなければ、次年度運用計画修正時まで銀行預金等で運用する

(2) 運用収益目標について

- この運用より得られる収益は30年日本国債の利回り(2.5%程度)を当面のメルクマールとする
- 外国債券を含め複数の債券でのポートフォリオ運用を図る

(3) 運用の基本的な考え方

- 投資対象商品の分散、投資期間の分散、通貨の分散を図る
- その上で、投資毎の取得価額の確保を図る
- (仕組債を除き)最長投資期間を10年としたラダー運用を基本とする
- 投資対象通貨はMMFでの設定が一般的な通貨とする
- 時価が取得価額の+10%以上となった時は益出しを検討しなければならない
- 時価が取得価額の-20%以上となった時は損切りを検討しなければならない

3. 2007年度運用計画(案)

(1) ポートフォリオ策定の考え方

-取得価額ベースで元本確保型債券を全体の3/4、他の債券を1/4を目安とするポートフォリオを基本とし、柔軟な運用を図る

元本確保型でない商品を全て損切りした場合、その穴埋めに2年間の運用収益を全てあてるリスクを負う

-元本確保型債券は、日本国債、その他の国内債券と、仕組債で構成する

-仕組債を除いた債券で、最長10年のラダー運用を志向するポートフォリオとする

<参考1> 2007年11月7日時点の2007年度運用対象資産

運用対象内訳	運用対象金額内訳	備考
2007年05月償還分	19,984,000	国内債券/資生堂
2007年12月償還分	19,988,400	国内債券/兵庫県民債
2008年03月償還分	9,976,200	国内債券/横浜市債
2007年度新規繰入れ分	8,062,000	補正予算計上/06年度 JPRS 株式配当分
2007年度新規繰入れ分	59,398,000	補正予算計上/収支差額(繰越金)より
計	117,984,600	

<参考2> 上記運用対象資産の投資(案)

運用/債券区分	運用期間	購入予算額	備考
国内債券	1年	41,000,000	
国内債券	4or5年	31,000,000	
外国債券	10年	45,948,600	通貨はUSDを想定
計		117,984,600	

(2) 運用に関する事務手続等

-投資開始時期は11月7日(水)第63回理事会にて承認後速やかに開始する

-運用する債券は既に運用債券を購入している国内の証券会社3社より選択し、購入する

4. 運用体制

-運用に関わる事務は総務部で主管する

-各売買の判断は、資産運用委員会が行う

以上